



磐二小だより

磐梯町立磐梯第二小学校

令和7年7月17日

第6号

発行責任者 天野 圭

キラキラとひとみが輝く二小の子ども

【1学期の思い出フォト】

【入学式】



【交通教室】



【少年消防クラブ入団式】



【避難訓練】



【1年生を迎える会】



【運動会前リレー相談】



【田植え】



【修学旅行】



【集会活動】



【水泳学習】



【自然教室】



【オリバー市長訪問】



違う角度から見た記録写真を掲載いたします。1学期も無事に終わることが出来ますこと、心より感謝申し上げます。子どもたちも保護者の皆様も、どうぞ事故やケガのない安全な夏休みに。

【宿題についての考え方】

毎年、子どもたちが夏季休業中に取り組む課題として、各学年だよりに内容が記載されています。教員になってから、毎年この時期に考えてきたことがいくつかあります。

○休み中に宿題が必要なのか。

○みんな同じ内容でいいのか。

このことについては、教員になって毎年悩んできました。

子どもたちが、積極的に取り組みたい内容であり「計画～学習～振り返り」と一連の流れの中で継続できるものであれば、宿題の必要はないのではと思っています。

また、子どもによっては、学習速度や習熟内容も違うので、個に応じた学習（宿題）に取り組むことが大切なのではないかと考えています。

しかしながら現状を鑑みると、

○宿題がない場合 → 何から取り組んでよいか分からない。

→ 学習した内容のどこが分からないのかが分からない。

→ 自分なりの学習スタイルが決まっていない。 等

宿題が出されない場合は、つまり子どもが多いのが現状です。

現在、各学年中位児の子どもをイメージしての内容を宿題にしています。

● 学習が分かる子どもにとっては、出された内容で満足することなく、さらに参考書等を準備し、進んで学習することを願います。

● 内容がよく分からない場合は、じっくり考え、分からないことを少しでも分かるようにし、分かったふりをしないこと。分からないことを分かるためには、時間や忍耐が必要になります。休み中に、自分なりの勉強の仕方を学ぶことができたなら最高だと思います。

真剣に何度も取り組んだのだけれども、分からないと困っている場合は、学校に電話を入れてください。担任の先生とは限りませんが何かアドバイスはできます。

少しでも「分からないことが分かった。」となる夏休みに。また、「これだけ計画的に勉強してがんばった。」と言える夏休みになることを願っています。

そして、さらに「キラキラとひとみが輝く二小の子ども」に近づけますように。

【校長のひとり事】

先日、カナダのオリバー市より、市長さん・議員さん等が本校視察に見えました。相手方は英語でお話され、日本語で知っている言葉は「ありがとう。」「どういたしまして。」等の決まった5つくらいの言葉だそうです。私自身、中学校から英語を始め、英語の新教研テスト（当時は各中学校の実力試験のようなものでした。）では、ほぼ3年間50点満点をとっていました。しかしスムーズに話せない。なぜ。話すためには英語の「助動詞」が大切だと自学したのは教員になってからでした。

以前、フィリピン出身のALTに英語が話せる理由について聞いたことがありました。そのALTの地域はタガログ語が主流だそうです。しかし、町のあちこちに英語表示の看板があり、生活するために英語を学ぶ必要があったそうです。なるほど、私の実家のまわりの看板は「元気 ハツラツ オロ○ミンC」や「強力殺虫液 キ○チョール」「大○のボンカレー」よくて「Coca-Co○a」でした。これじゃ英語の必要性がありませんよね。日常生活に関連した英語の学習ができればよかったなと思います。子どもたちには、話せる英語、使える英語をがんばってねと言いたいところです。